

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	社会福祉法人ねりま共育ちの会 どんぐり山保育園
所在地	東京都練馬区春日町 4-1-13

1. 活動のテーマ

【テーマ】

五感で楽しむ「しずくあそび」 / 5歳「もり組」

【実施時期】

2025年8月

【テーマの設定理由】

身近で毎日触れたり飲んだりしている「水」の一滴と改めて出会い、遊びを通して五感でその特徴に触れ、雨（水）の巡りに気付くきっかけとする。また、しずくの美しさや不思議との出会いを通して、豊かな感性と好奇心を育むことを目的に、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

AM 08:45～	ウレシパモシリ園入り ウレシパモシリスタッフは、園での環境設定・準備 <input type="checkbox"/> ブルーシート <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> 雑巾 <input type="checkbox"/> ペットボトル3色分作成 <input type="checkbox"/> 2人で1セットの色水セットのセッティング <input type="checkbox"/> 紙皿
09:15～	ウレシパモシリ自己紹介 自然にごあいさつ 雨の音ってどんな音？雨のにおいってどんな匂い？雨の形は？色は？
09:30～	【あそびの導入】 絵本「みずのつぶがあつまると」 水をつぶ「しずく」を作ってみよう（自分の腕や手に） <input type="checkbox"/> スポイト：1人1本 <input type="checkbox"/> 透明プラカップ（小） <input type="checkbox"/> タオル（小）
09:45～	【あそびの展開①葉っぱの上にしずくを作ってみよう】 ・いろいろな葉っぱにしずくを作ってみる ・スペシャルの葉っぱ（カツラ、クズ）にしずくを作ってみる 【あそびの展開②色のしずくをつかまえて、にじみ絵を作ろう】 ・色水でしずくを作ってみる

	<ul style="list-style-type: none"> ・混ぜり合っでできた色をつかまえよう ・何にみえるかな？（台紙に子どもの言葉を大人が記入します。ご協力ください） <p> <input type="checkbox"/>障子紙を張った画用紙の台紙（人数分） <input type="checkbox"/>黒いペンかクレヨン <input type="checkbox"/>障子紙予備 <input type="checkbox"/>キッチンペーパー </p> <p>【あそびの展開③色水で乾杯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人1色の透明カップを持って「乾杯！色水く～ださい」 ・できた色水を並べてみよう（色のグラデーション） ・大きな障子紙にみんなで色水を垂らしてみよう
10:45～	<p>【あそびのシェアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐり山保育園絵画展開催！（おともだちの作品を見てみよう） ・自分の気持ちを言葉にしたい子どもからお話を聞く <p>絵本「しずくみ～つけたっ」</p>
10:45	終了

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ブルーシート
- ・新聞紙（多めにお願いします）
- ・雑巾（こぼした時用）
- ・絵の具3色（青・赤・黄）
- ・黒ペンかクレヨン
- ・スポイト
- ・透明プラカップ
- ・紙皿
- ・ペットボトル
- ・絵本2冊
- ・葉っぱ
- ・キッチンペーパー
- ・障子紙：大3枚、小×人数分
- ・障子紙を張るような台紙×人数分

4. 探究活動の実績

【活動の内容】

自然遊びの講師「ウレシパモシリ」の先生を迎え、「しずくと遊んでみよう！」をテーマ

に活動を行った。

はじめに、子どもたちは「雨はどこからくるのか」「どんな音や匂いがするのか」など、雨について思い思いに話し合い、水への興味や関心を深めた。

その後、スポイトを使ってしずくを作り、腕や葉の上に乗せて観察した。葉の種類によってしずくの動きが異なることに気づき、「ビー玉みたい」「動いてる！」など、驚きや発見の声が聞かれた。

最後は赤・青・黄色の色水を使って色の変化を楽しみ、障子紙にしずくを写し取る活動を行った。水の性質や美しさに触れながら、五感を使って探究する機会となった。

【活動の様子】



【振り返り】

雨やしずくについて考え、疑問を持った後は、スポイトを使って目の前のしずくに夢中になって遊ぶ姿が見られた。「こうしたらどうなるのだろう」と、保育者が働きかけなくても自らさまざまな方法を試し、探究する様子が印象的であった。

今回の活動を通して、日常の中で当たり前にある自然も、子どもたちにとっては十分に遊びや学びの素材となることを改めて実感した。今後は、よりじっくりと自然を探究できる環境づくりを進めるとともに、戸外での活動が難しい日でも、保育者が集めた葉や木の実などの自然物を身近に置き、子どもたちが自由に興味や関心を広げられる環境を整えてい

きたい。

また、色遊びで使った障子紙は今後も保育に取り入れ、色の変化やにじみを楽しむ活動や制作活動など、さまざまな場面で活用していく。